

平成21年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成21年の梅雨入りは、沖縄地方から九州南部にかけては遅く、九州北部地方から東北地方にかけては早かった。梅雨明けは、太平洋高気圧の日本列島付近への張り出しが弱く、このため、多くの地方で梅雨明けが遅くなったほか、日本海側の地方などで、梅雨明けが特定できなかった。梅雨の時期の降水量(*1)は、九州南部で少なく、九州北部地方、中国地方、東北北部で多かった。概ね各地とも、降水量は前半に少なく、後半に多かった。

地方名	梅雨入り(*2)	平年	梅雨明け(*2)	平年	梅雨時期の降水量 平年比と階級(*1)
沖縄	5月18日ごろ(+)*	5月8日ごろ	7月6日ごろ(+)*	6月23日ごろ	94%(0)
奄美	5月18日ごろ(+)	5月10日ごろ	7月5日ごろ(+)	6月28日ごろ	93%(0)
九州南部	6月2日ごろ(+)	5月29日ごろ	7月12日ごろ(0)	7月13日ごろ	52%(-)*
九州北部	6月3日ごろ(-)	6月5日ごろ	8月4日ごろ(+)*	7月18日ごろ	120%(+)
四国	6月3日ごろ(0)	6月4日ごろ	7月30日ごろ(+)*	7月17日ごろ	87%(-)
中国	6月3日ごろ(-)	6月6日ごろ	特定しない	7月20日ごろ	125%(+)
近畿	6月3日ごろ(-)	6月6日ごろ	8月3日ごろ(+)*	7月19日ごろ	93%(0)
東海	6月3日ごろ(-)	6月8日ごろ	8月3日ごろ(+)*	7月20日ごろ	104%(0)
関東甲信	6月3日ごろ(-)	6月8日ごろ	7月14日ごろ(-)	7月20日ごろ	95%(0)
北陸	6月3日ごろ(-)	6月10日ごろ	特定しない	7月22日ごろ	115%(0)
東北南部	6月4日ごろ(-)	6月10日ごろ	特定しない	7月23日ごろ	96%(0)
東北北部	6月4日ごろ(-)*	6月12日ごろ	特定しない	7月27日ごろ	155%(+)*

(*1) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*:かなり多い、(+):多い、(0):平年並、(-):少ない、(-)*:かなり少ない、の階級区分を表す。

(*2) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日本をもって「**日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)*:かなり遅い、(+):遅い、(0):平年並、(-):早い、(-)*:かなり早い、の階級区分を表す。

階級区分は、1971~2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%	33%	33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い	平年並	早い
	かなり遅い		かなり早い
降水量	少ない	平年並	多い
	かなり少ない		かなり多い

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っている。

本件に関する問い合わせ先：予報部予報課(内線3127)地球環境・海洋部気候情報課(内線3154)